


筑波大学体育会ワンダーフォーゲルクラブ  
 山行報告書〈party wandering〉  
 山行名：「わーい、ゆきだゆきだ～・・・って多すぎ！！」

山行名：わーい、ゆきだゆきだ～・・・って多すぎ！！			
山城：日光白根山			
日程：2007年12月27日（木）～28日（金）1泊2日			
C.L.：佐々木			
メンバー：原田、奥村、高須、山口、大石、広沢			
日時	場所	天候	状況・判断
前夜(12/26) 10:30 2:00	つくば発 日光湯元スキー場		また、銀河車のガソリンがギリギリになる。 軽自動車のため容量が少ないためだと思われる。
1日目(12/27) 5:00-6:42 7:55-8:10 9:41-10:04 11:07-11:15 11:47-12:00	起床・出発 尾根上 外山分岐 前白根山 避難小屋	快晴 ↓	雪が固くしまっていて、所々クラストしている。 アイゼンを装着する。 山口が腹痛を訴える。標識が出ていた。 前白根山周辺では雪がなくなり土が出始める。 風が強いが、天気がよく360° 視界はきく。 尾根から避難小屋の方に行くトラバースへの分岐は標識が立っていて分かりやすかった。トラバース道は比較的雪が多い。
13:45	奥白根山		 <p>トラバース分岐</p> <p>ペースも速かったのと2日目以降天気が崩れる予報であったため、工程を早めて白根山をピストンすることにした。 佐々木の右ひざに痛みが出始めペースを落とす。 奥白根山へは岩も所々出ていてアイゼンは必須。天気がよく視界は利いていたため赤旗は10本しか使用しなかったが、視界不良時は迷いそう。 山頂についてもまだ膝の痛みがあったため佐々木の装備を</p>

15:00	避難小屋		他のメンバーで分け合う。 奥白根からの下降は滑落したら危険な斜面で注意が必要。 雪の下に岩が埋まっている箇所が多く、少し手間取った。 本来テント泊の予定だったが、疲れていたこともあり避難小屋泊にする。 その夜の天気図と予報でこれから天気が悪化することが予想されていたことと銀河の膝の痛みもあり、五色沼方面には行かず、来た道に戻って明日下山することにした。
2日目(12/28)			
5:07	起床	曇 ↓	時間に余裕があったためビーコン捜索訓練を行う。 終始アイゼン歩行。銀河の膝の痛みのため再び装備を分ける。
6:15-7:30	ビーコン捜索訓練		
8:47-9:08	外山分岐		
11:00	湯元スキー場		

<p>アプローチ： つくば⇄R125⇄R294⇄R408⇄R123⇄R4⇄R119⇄R120⇄湯元</p> <p>反省、感想、今後の課題など：</p> <p>○高須</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初日から晴天でよかった</li> <li>・ 雪が少ないとアイゼンでは歩きづらい</li> <li>・ 奥白根山でラッセルを体験できた</li> <li>・ 避難小屋泊は寒いことを身をもって実感した</li> <li>・ 白根山に1日目に登ったのは正解だった</li> </ul> <p>○奥村</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前日の準備が遅くなってしまった</li> <li>・ 朝のパッキングが遅かった。夏山とは要領が違う。</li> <li>・ 前回に比べ少しずつ歩行の仕方が分かってきた</li> <li>・ 天気がよく、山をやっていてよかったと思った</li> </ul> <p>○山口</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入山前に高須が气象台の情報をメーリスで流してくれたのはよかった</li> <li>・ 1日目に腹痛を起こしてしまった。体調管理に気をつけたい</li> <li>・ 2回目の冬山でだいぶ慣れた</li> <li>・ 食料が重くなった</li> </ul> <p>○広沢</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回より余裕ができた</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ・ にんにくチューブなどレーションを工夫したのはよかった
- ・ バランスを崩した時にスパッツを破いてしまった
- ・ 避難小屋の辺りでばててしまった
- ・ 夜寒くて眠ることができなかった
- ・ みんなで天候判断をしたことはよかった
- ・ 危険箇所はもっと緊張感をもって通過するべき

○大石

- ・ 2日目の下りで集中力が切れていた。下山のため朝から気がゆるんでいたため。
- ・ 寝言で他の人を眠れなくさせてしまった
- ・ 基本的に冬山での岩場はアイゼンで行くため、岩の凹凸にしっかりと爪をかける必要がある
- ・ アイゼンかつぼ足かワカンかの選択はよく考えるべき
- ・ みなピッケルをうまく使って体勢を安定させていた
- ・ 奥白根行きは佐々木の足の膝のことを考えても無謀だったのでは？

○原田

- ・ カップのニクワックスが効いていて快適だった
- ・ アイゼンのいい練習になった
- ・ 歩いている途中前に倒れることが多かった。危ない。
- ・ 奥白根山のラッセルがきつかった。

○佐々木

- ・ 膝の痛みは慢性的なものである気がする。対処法を考える
- ・ 天候がいろいろうちにアタックしたのは正解だったと思う
- ・ パッキングが遅かった
- ・ アイゼンワークは慣れによるところが大きい。意識的に慎重な歩行が必要な部分を考え、集中するところとあまり必要ないところを分ける。
- ・ フラットとキックの使い分け。ピッケルを有効に使うことで体勢を安定させる
- ・ アイゼンの脱着が早くなった
- ・ 幕営をもう少しやりたかった

●追記

自分達が下山した数日後同じエリアで、あるパーティーで疲労による凍死者を1名出したのをネットで知った。今回の年末年始は強力な冬型により、あちこちで死亡者が発生していた。

天候次第では同じエリアでも数日のうちに別の山になってしまうことを改めて痛感した。

自分達は危険な活動をしていることを常々認識しておく必要がある。